

神大惜敗優勝逃す

サッカー

全日本女子選手権

サッカの全日本女子選手権は14日、東京0-1で惜敗した。早大は、初の大大会連続6度目の優勝を逃した。

関東第5代表から勝ち上がり、初の単独制覇を狙った神奈川大は、女子大の壁に阻まれた。

早大は25本のシュートを許し、神大はわずか4本。0-1というスコア以上に差を痛感させられた。フィジカルが強く、パスをしてもつづがれてしまふと主将でユニバースリーグ日本女子代表の梅津、得意のパスつなぎも美らず、リズムをつくれなかった。

「もっと生き生きとプレーさせてあげたかった」と大槻茂久監督(37)は唇を噛む。昨年10月のリーグ戦では早大と3-3と引き分けていたが、2大会ぶりの決勝の雰囲気には押されたのか梅津は「圧

・味の素ワールド西がはる大会連続6度目の優勝。丘で決勝が行われ、6大会ぶり2度目の優勝を目前に控えた。

神大は細かいパスをつないで攻めの姿勢を見せた。早大の徹底された

マンマークディフェンスで決定機をつくれず、前半20分にセットプレーから早大にゴールを許した。

▽3位決定戦

大分大 1-0 00 東洋大

▽決勝

早大 1-0 00 神奈川大

早大は大会連続6度目の優勝

パスつなぎ信念貫く



倒された」と振り返る。

最後まで信念は貫いた。「パスサッカーで後悔なく戦い切ろうと思っていた」と、卒業後はノジマステラ神奈川相模原に加入するエース田中。

ウダブルーのユニホームに刻まれた思いは継承されていた。4年生18人のうち12人が卒業後もプレーを続ける。フランク。(矢部 真太)

【神奈川大 早大ドリームで突破する神奈川大・田中】味の素ワールド西が丘(吉田 太一写す)